

提出締め切り: 2019年10月25日(金) 23:59:59 JST

提出先: ohya@phys.cst.nihon-u.ac.jp

または駿河台校舎8号館2階823D室

問題. 変位演算子とコヒーレント状態

1次元調和振動子の昇降演算子 a と a^\dagger 及び基底状態 $|0\rangle$ を考える. これらは次を満たす:

$$[a, a^\dagger] = 1 \quad \& \quad a|0\rangle = 0 \quad (1)$$

以下の問いに答えよ.

(i) 次の様に a と a^\dagger を複素数の定数 α だけずらした演算子 a' と a'^\dagger を考えよう:

$$a' = a - \alpha \quad \& \quad a'^\dagger = a^\dagger - \alpha^* \quad (2)$$

これらは次の様に a と a^\dagger のユニタリー変換で与えられる事を示せ:^{*1}

$$a' = UaU^{-1} \quad \& \quad a'^\dagger = Ua^\dagger U^{-1} \quad (3)$$

但し, U は次式で定義されるユニタリー演算子である:

$$U = \exp(iT) \quad \text{with} \quad T = -i(\alpha a^\dagger - \alpha^* a) \quad (4)$$

$T = T^\dagger$ はエルミート演算子である事, 及び, $U^{-1} = U^\dagger = \exp(-iT)$ に注意. 式(4)のユニタリー演算子 U を変位演算子(displacement operator)と呼ぶ.

(ii) a' と a'^\dagger は交換関係 $[a', a'^\dagger] = 1$ を満たすのでこれらも昇降演算子である. そこで, a' で消滅させられる新たな基底状態 $|0'\rangle$ を考えよう:

$$a'|0'\rangle = 0 \quad (5)$$

以下, この状態ベクトル $|0'\rangle$ を求めよう. $a' = UaU^{-1}$ に注意すると, 次が方程式(5)の解である事が分かる:

$$|0'\rangle = U|0\rangle \quad (6)$$

実際, この時 $a'|0'\rangle = UaU^{-1}U|0\rangle = Ua|0\rangle = 0$ となる. 式(6)の右辺は次の様に表される事を示せ:^{*2}

$$|0'\rangle = e^{-\frac{1}{2}|\alpha|^2} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\alpha^n}{\sqrt{n!}} |n\rangle \quad \text{with} \quad |n\rangle = \frac{1}{\sqrt{n!}} (a^\dagger)^n |0\rangle \quad (7)$$

式(5)は $a|0'\rangle = \alpha|0'\rangle$ と等しい事, 即ち, $|0'\rangle$ は a の固有値 α に属する固有状態である事に注意. 一般に, 降演算子 a の固有状態をコヒーレント状態(coherent state)と呼ぶ. コヒーレント状態は量子光学などでよく登場する.

*1 ヒント: 一般に, 演算子 A と B に対して次が成り立つ:

$$e^{-B} A e^B = A + [A, B] + \frac{1}{2!} [[A, B], B] + \frac{1}{3!} [[[A, B], B], B] + \dots$$

これをBaker-Campbell-Hausdorffの公式と呼ぶ. この公式を $e^{iT} a e^{-iT}$ と $e^{iT} a^\dagger e^{-iT}$ に適用すれば良い. 交換関係 $[a, iT] = \alpha$, $[a^\dagger, iT] = \alpha^*$ に注意すると, 上の展開の3項目以降は全てゼロである事が分かる.

*2 ヒント: 一般に, $[A, [A, B]] = 0$ 且つ $[B, [A, B]] = 0$ を満たす演算子 A と B に対して次が成り立つ:

$$e^{A+B} = e^A e^B e^{-\frac{1}{2}[A, B]}$$

これを使うと $U = e^{\alpha a^\dagger - \alpha^* a} = e^{\alpha a^\dagger} e^{-\alpha^* a} e^{-\frac{1}{2}|\alpha|^2}$ が成り立つ. $a|0\rangle = 0$ なので, 演算子 $e^{-\alpha^* a} = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-\alpha^*)^n}{n!} a^n$ を $|0\rangle$ に作用させると $n = 0$ の所だけが生き残って $e^{-\alpha^* a}|0\rangle = |0\rangle$ となる事に注意.

- (iii) 通常の1次元調和振動子のハミルトニアン H と、これの運動量及び位置を実定数 p_0 と x_0 だけずらしたハミルトニアン H' を考える:

$$H = \frac{p^2}{2m} + \frac{m\omega^2}{2}x^2 \quad \& \quad H' = \frac{(p-p_0)^2}{2m} + \frac{m\omega^2}{2}(x-x_0)^2 \quad (8)$$

この H と H' の間には或るユニタリー変換 U が存在して $H' = UHU^{-1}$ という関係が成り立つ。上の(i)の結果を用いてこの U を求めよ*3。また、(ii)の結果を用いて H' の基底状態 $|0'\rangle$ と H の基底状態 $|0\rangle$ の間の関係を求めよ。この様に2つの理論が互いに或るユニタリー変換で結び付いている場合、その2つの理論はユニタリー同値(**unitarily equivalent**)であると言う。

*3 ヒント: 式(8)のハミルトニアンは $H = \hbar\omega(a^\dagger a + \frac{1}{2})$, $H' = \hbar\omega(a'^\dagger a' + \frac{1}{2})$ と書ける。但し,

$$a = \sqrt{\frac{m\omega}{2\hbar}}x + \frac{i}{\sqrt{2\hbar m\omega}}p, \quad a^\dagger = \sqrt{\frac{m\omega}{2\hbar}}x - \frac{i}{\sqrt{2\hbar m\omega}}p$$

$$a' = \sqrt{\frac{m\omega}{2\hbar}}(x-x_0) + \frac{i}{\sqrt{2\hbar m\omega}}(p-p_0), \quad a'^\dagger = \sqrt{\frac{m\omega}{2\hbar}}(x-x_0) - \frac{i}{\sqrt{2\hbar m\omega}}(p-p_0)$$

である。これらと式(2)を比較する事で α を読み取り、それを式(4)に代入すれば良い。 U は x, p, x_0, p_0 を用いて表すと良い。